

美しき妙高山と良き仲間達

東京都 小竹公夫（妙高出身）

妙高山はいつも美しい。特に晴れた日の妙高山には神秘的ですらあります。初めてきれいと感じたのは、三才の冬に母と見た、かつて妙高温泉に存在した大天井スキー場から晴天にそびえる妙高山でした。三才児に美しさを感じさせた不思議なことです。私は一九三四年東京生まれですが出産が三ヶ月早いため虚弱児で自然の多い妙高へ夏・冬を中心に母と共に滞在していたと聞いていました。時が経ち第二次大戦勃発後の一九四三年東京にも戦火が及び疎開先が妙高に決まったことは幸運でした。母と始めて離れて暮らしたのが小学生五年で六ヶ月程でした。が食生活で変化がありました。食事の時に大きな皿に紫色のナスの漬物が目に入り思わずこれ喰べてもいいのとは大感激でした。体の弱い私に母はナスの漬物は消化が悪いとのことで二切れだけそれも紫の

部分を除き白味だけでしたので丸ごと喰べた味の美味しさは記憶に残っています。妙高での疎開生活で食生活が大幅に改革めきめき丈夫な子供に育ちました。関川小六年時学校制度の変更で新制中学としての妙高中学、高田高校へと少年期を妙高で過ごし基本人格を形成させていたたきました。冬に雪が降り始めますと嬉しくて朝楽しみに積もったかなと窓を開けて外を見ました。池の平・赤倉春には北向きの長範山へとスキーに夢中になり関川小六年時に戦後初の上越児童滑降競技スキー大会が赤倉で開催三名の選手派遣の枠内に私も入り以後妙高中・高田高校でスキー部の一員として良き仲間と交流、心身の成長期に好影響を受けましたことを感謝しています。今年の四月中旬に伊東温泉へ妙高中一九五〇年卒の同級生が五十名集まり同級生大会を一泊二日で開

きます。大切な仲間なので在京幹事の一人として盛大で楽しい会になる様他の幹事達と鋭意努力中の今日この頃です。高田高校関係では東京六華会に入会そして東京一義会の皆様に大変お世話になっていまして幸せの中今年は元氣の中お蔭様で古希を迎えました。これも美しき妙高山と良き仲間のお蔭と思っています。ありがとう。

